

## 【概要】

東日本大震災から9年が経過し、被災した高田松原に津波復興記念公園が整備され、国営追悼・祈念施設 道の駅「高田松原」及び東日本大震災津波伝承館がオープンしました。市の玄関口として、また東日本大震災の事実と教訓を伝えるという大きな役割を持つ施設であります。

国内では巨大台風が複数回上陸し、各地に大きな被害をもたらし、自然災害の恐ろしさを強く感じました。

台風の被害は広い範囲におよんだ為、全国の社会福祉協議会が支援に動き、本会としても職員を被災地に派遣するとともに、市民を募集してのボランティアバスを初めて運行するなど、災害支援について改めて考える年となりました。

一方、相談業務については、市の中心部にオープンしたアムウェイハウス「まちの縁側」のなかに“くらし応援窓口”を設置し、だれもが入りやすく相談しやすい環境の中で各種の相談に対応してまいりました。

被災者の支援につきましては、仮設住宅にお住まいの方や、移動や転居にて新しい生活を始める住民の方の見守りや相談対応を、継続して行ってまいりました。また、市民交流プラザに来られない方のために、「出張市民交流プラザ」を実施し、見守り・相談対応の強化に努めました。

日々変化していく住民の生活に寄り添いながら、既存の事業の充実と今後の新しい事業の展開を見据えた活動を行ってまいりました。

## 主な事業内容と実績

### 地域福祉事業

- 社協広報誌の発行 12回
- うるおいとやすらぎの家事業  
助成金交付額 1,932,000円/11地区
- ふれあいネットワーク事業 対象者 6名/2地区
- こんにちは赤ちゃん訪問事業 78名の赤ちゃんを祝福
- 福祉バスの運行 9回
- 金婚祝賀会の開催 参加者83名/参加率58%
- 福祉大会の開催  
受賞者 個人22名、1団体/出席者 284名
- 福祉無償運送事業「おひさま」  
登録者数 317名/利用延回数 2,476回
- 支え合いマップ作成事業 高田町栃が沢公営住宅
- 福祉団体への助成 469,000円/6団体
- ふれあいサロンの開催  
実施回数 69回/参加延人数 1,136名
- 生活支援相談員の配置  
訪問対象世帯数 892世帯  
訪問延件数 10,361件
- 自立再建後のコミュニティ再生支援
  - ・ 支え合いマップ作成を用いた救急医療情報キット配布説明会
  - ・ 「地域サポート会議」の開催
- 市民交流プラザの運営
  - ・ 「市民交流プラザだより」の発行
  - ・ 下和野「一緒に昼食を食べる会」の開催
  - ・ 「出張市民交流プラザ」の開催
- 介護予防・いきいきライフ事業  
開催数 23回/参加数 494名

### 福祉サービス利用支援

- 生活福祉資金 相談件数 46件 貸付件数 6件  
福祉費 1,681,000円  
緊急小口資金 50,000円  
教育支援資金 3,415,000円
- 生活困窮者自立支援事業 相談件数 39件
- フードバンク 提供延回数 8回
- 日常生活自立支援事業（あんしんねっと）  
利用者数 20名

### ボランティア活動センター

- ボランティア活動保険の加入促進
- 福祉ボランティア講座の開催 参加者34名
- 市民ボランティアの登録 31名、12団体
- 市内外ボランティアのマッチング 69件
- 資機材の貸出し 16件
- ボランティアバスの運行 1件  
・ 令和元年台風19号（山田町） 6名

### 福祉団体との共同事業

- 陸前高田市民生委員児童委員協議会
- 陸前高田市老人クラブ連合会
- 陸前高田市ボランティア連絡協議会

### 在宅福祉事業

- 介護保険訪問介護  
提供延件数 1,789件/月平均利用者数 13名
- 障がい者訪問介護  
提供延件数 2,397件/月平均利用者数 32名
- 居宅介護支援 介護給付 月平均利用者数 43名  
予防給付 月平均利用者数 1名
- 通所介護事業  
登録者数 21名/提供延件数 1,663件